

第16回県政ひざづめ談議結果概要

- 開催時間：平成22年11月22日 16:10～
- 開催場所：山梨県林業会館
- 対話グループ：一般社団法人 山梨県木材協会

○司会

知事が到着いたしましたので、ひざづめ談議を早速始めさせていただきます。
まず知事からあいさつをいたします。

○知事

どうも、皆さんこんにちは。

今日は県下の各地から、森づくり、あるいは林業関係の皆さん方にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。

会長は私と同じ年ですけれども、本日は、みんなもう30代、40代、50代の方々ということで、大変楽しみにしてやってきました。

国産材も長い間、外材に押されて厳しい状況が続いて来たわけではありますが、昨今はだいぶ外材の材価も高くなってきているとか、あるいはロシアが輸出制限をしているというようなことがあって、だいぶ国産材に対する需要も増加してきているというような状況のようでもありますし、また地球温暖化対策としての森林、森づくりの重要性というようなことを指摘されたりして、だいぶ森づくり、林業の關係にフォローの風が吹いて来たなという感じがしております。

県産材、山梨県の場合は、全国でも有数の森林県であるにもかかわらず、ブランド力がなくて大変残念なところでもありますけれども、こういうときをとらえて、ぜひ皆さん方のお力を借りながら、県産材の大なる振興を図っていきたいものだと思っているわけでもあります。

そんなことで今日は皆さん方、特に若い皆さん方からいろいろなご意見を聞かせていただければありがたいと、このように思います。

ひざづめ談議ということで、もうざっくりばらんに、特にどうということは全くないわけでもあります。何でも普段お考えになっていることをおっしゃっていただければいいというように思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会

続きまして、同席しております県の担当者を紹介させていただきます。

県産材の需要拡大などに取り組んでおります、大竹林業振興課長です。

○林業振興課長

大竹です。よろしく願いいたします。

○司会

それでは早速、ひざづめ談議を始めさせていただきます。お茶を、どうぞ飲みながら。

○知事

会長さんから何か。

○参加者

知事さんには、このお天気も悪い中を本当に遠くまでお越しいただいて、ありがたく思っております。

今日は、先ほど知事さんからお話がありましたとおり、ひざづめ談議ということで、どんなことでもいいんじゃないかなと、実は思っております。

ただ、こうしてほしい、こうしてくれそうなものだと、そういうお願いではなくて、こんなふうなことを私たちは今こういうふうに行っているんだと。だけど、このへんからちょっとアドバイスをほしいとか、このへんから協力をしてもらいたいとか、そういうような話に持っていければ、たぶん知事さんも「よっしゃっ」と言ってくれるんじゃないかなと思うんですよ。

先ほど話がありましたとおり、若い人たちの今日、会議だということですから、私は一切どうも口がきけそうもない。ただ、よそへ行って、自己紹介をするときには、まだ私は69歳ですという、そういう自己紹介をいつもしております。年賀状にも、そんなふうはまだ69歳と、まだ70というふうを書いて。知事さんもまだまだこれから、同じ年でございますから頑張ってもらえるんじゃないかと思うんですが、ざっくばらんに気楽にお話をいただければと思います。

どうぞ、よろしく申し上げます。

○参加者

峡南森林組合です。よろしく申し上げます。

今日は南部町の森林組合の入札に行ってきたんですけども、県有林・国有林、だいぶ植林されていまして、何点かはうちの方で取らせていただきました。

先に土木の話をしてますと、土木に使う丸太筋工、それが木の細いところなんですけど、昔は切り捨て間伐で、今は利用間伐で、県のほうでもだいぶ木を使えということで、需要が増えています。

ところが、県外でも同じようなことが多くて、結構県外の業者に持っていかれて品不足な状態です。それで県有林・国有林は、市場の入札をかけないと売っていただけないと。素材とか千円ぐらい高く買うから、うちへ回してくださいと言っても、入札へかけるような状態で、非常に今、苦勞しています。できるだけ利用できる木は出していただきたいというのが私の要望です。

もう1点、建築のほうで柱の材、同じく県有林・国有林が出ていまして、やはりハウスメーカー、埼玉から来ているハウスメーカーさんが結構強いんですけども、取りっこになってというか、価格の部分で。やはり、見積りなんか来て、県産材でほしいとあって、品がないときに回してほしいと言っても、市場へかけなければ出せないよと。現状、国有林・県有林も随契というか、相場よりか平均単価ぐらいで出していただければ、仕事もすんなり進むんですが。

○知事

基本的には入札ですか、県有林。

○林業振興課長

県有林も限定指名公売といたしまして、地元の業者に最初に優先的に売るという入札システムをやっています。この前、県有林課とも話したんですが、地元からの要望があれば、限定指名公売をもうちょっと増やしてもいいんじゃないかと。

○参加者

そういうことがあるとありがたいですね。

○林業振興課長

また相談していただければと思います。

○参加者

2、3年ぐらい前に知事さんとのこういう席を設けさせていただきましたが、あのとき確か、小径木をもっと利用してもらいたいとお願いしたんですが、今本当にいろいろ使っていただきましてありがとうございました。

以前は、誰もということはないですが、買い手が少なくて、残った材料を自分たちが買って、それを東京のほうへ出していたんですが、最近そういう、治山工事で使われる土留めの材料とか型枠など、いろいろ使っていただいていますので、本当に助かっています。

○知事

南部の森林組合というのは本当に山梨県でもモデル的というか、先進的で一生懸命やっていてね、ちょうど3年ぐらい前は確か、高性能機械を、林業機械をモデル的に入れてみるかなんて、確かね。

○林業振興課長

今、人気が結構あります。

○知事

そうですね。それは結構ですね。

南部はまたぜひ一つ、先頭に立って、これから林道も整備したりとか、そういう高性能機械を入れたりとか、いろいろやらなければいけませんから、ぜひ頑張っていたきたいですね。

○参加者

それからあと1ついいですか。ちょっと重複してしまうんですが、県産材の利用が結構多くなってきていて、県有林も結構伐期を迎えている木がたくさんあると聞いています。

それで今、乾燥機を使ってやるものですから、時期に関係なく1年中、平均的にこういう材料を出してもらいたい。

○知事

平均的に。

○参加者

はい。秋から4月いっぱい、そのくらいしか今出てないので。

○知事

それはどうなんですか。

○林業振興課長

今まで木を切るのは冬場の仕事という固定観念があったんです。年度によって搬出量を決めますので、伐採時期も柔軟に対応できるのではないかと思います。

○知事

乾燥材となれば、年がら年中、ある一定でも出るほうが良いということですか。工場でするでしょうからね、きっとね。そうですか。

森林組合といえば、最近、京都の日吉町の森林組合は評判が良いね。ものすごく生産性を上げたという話を聞くね。ああいうものを、ぜひ一つ研究してもらってと思いますね。

○参加者

私のところは製材所をやっているんですが、梱包とって、あまり建築材ではないような。ですので、森林で言うと間伐材とか、そういったものをターゲットにして製材をしているんです。

要望というかちょっと感じたことなんですが、2年ぐらい前からおがくずを固めて、固形燃料でペレットというんですが、そういう製造を2年前ほどから開始したんですね。それまでって、やっぱりペレットとかなので、企業さん向けで、あまり私、本当に末端のユーザーさんというんですか、使っている人たちと触れ合うことがなかったので、果たして県産材というものは、どういうふうに県民の皆さんたちに見られているのかというのは、あまりグレーでよく分からなかったんですが、最近ストーブをほしいというお客さんから問い合わせがあって、お宅でペレットを売ってくれるかという話があったんですね。

もちろん作っているんで、ぜひ買ってくださいというように話をしたんですが、何でそんな質問をするんですかと話をしたら、その方は前々からペレットストーブをほしかったみたいなんです。けども、その方の考え方だと、インターネットでも買えるんですね、ペレットって、安い物は。でも、その方と話をしたら、地域のエネルギーを使わなかったら、あまり意味がないと。

地元というか、別にうちじゃなくてもいいんですけども、県内とか地元でペレットが調達できなかつたら、私はそのストーブを買う意味がないんだという話をされて、そういう話を聞いたときに、やっぱり県産材というんだけれども、やっぱり地域材を使うことで、その人はそのポリシーを持つというか、それってきっとエネルギーだけではなくて、住宅とか、そういったものも実は地域の木で家を建てるということは、そういうことにつながる、そういう人たちが潜在的にいるんだなということを感じて。その人たちがやっぱり一番願っていることというのは、自分たちは地域材を使うことによって、やっぱり森林が変わっていくというか、そのペレットで地元を頼んだから、当然地元の山も良くなるでしょうと、やっぱり期待されていると思うんです。

けど、やっぱり県の中ではなかなか地域材を使っても、ダイレクトに地元の山が整備されていくというような流れが明確になっていないというか、なかなか分かりづらいところがやっぱりあって、それって一製材所ではとてもできない話です。それってワインにも似ているというか、その地元のワインのことでポリ

シーを感じる方とかあるじゃないですか。だから木材もそういうところをもうちょっと県民の皆さんにPRしていかないと。

○知事

ペレットも産地表示なんかすればいいんだよね。市販できればね。
今は清泉寮とかに・・・。

○参加者

ほとんどがやっぱり地元の人に使ってもらっているんですが、なかなかやっぱり・・・。

○知事

清泉寮以外にもいくつか使ってもらっているの。

○参加者

山梨市役所のボイラー、冷暖房で夏場も使ってもらっているんですが、なかなか私たちもそういうものを使ってもらっても、やっぱり山に還元するということ、なかなか難しいなど。でもそこはたぶん一番、ユーザーさんとする、そこを期待しているということ、すごく感じるんですが、そういう仕組みをどういうふうにしたらいかなということ。

○知事

供給している袋とかに、何か産地表示みたいなね、山梨県産の木材で作ったペレットだよという表示みたいなものとかね、何かいろいろ工夫はあると思いますよね。

○参加者

ペレットはF S Cで販売して・・・。

○知事

今はかなり市販までしているんですか。それとも相対の供給ですか。

○参加者

ほとんどですね、その大きいボイラーに関してはお届けしているんですが、トラックで持って行って。本当に家庭で使っている個人の方は、買いに来ていただいたりとか。

○知事

今、何軒ぐらいありますか。

○参加者

どうですかね。県内でストーブはまだ100台どうかという・・・。

○知事

ペレットストーブですか。

○参加者

はい。

○知事

それで、それだけの相当な供給しているわけね。

○参加者

相当でもない。やっぱり長野とかでもつくっているの、時期によっては、長

野から持ってきたりされている方もいるので、ちょっと全体としてあまり把握してないんですが。

○知事

あれは木によって、そのペレットの原料として不適切で、うまく燃えないようなものはあるんですか。

○参加者

不適切ということはないんですが、やっぱりカロリーとか、そのストーブにも設定があるんですよね。風の量とか。そういったものは、やっぱり原料によってまちまちなので、そこは変えてあげないといけないんですが。

○知事

矢崎総業なんかは非常に一生懸命やっていますね。ハウスのペレットストーブとか、冷暖房とか、いろいろやっていますよね。あれは素晴らしいですね。

本当、山梨は果物のハウスの暖房に、ペレットストーブを使うべきなんだよね。これは大いに普及、これをやろうかと思っているんですがね。

○参加者

南アルプス市の方では、トマトで。

○知事

そうですか。果物はまだ難しいですかね。

○参加者

同級生で農業をやっている人がいるもので、そういう話をしましたら、難しいのではなくて、ボイラーが高くて、果樹は儲からないから、ボイラーにそんな何百万円もかけて買い替えられるかという話は聞きましたけれども。

○知事

やっぱりペレットのストーブは高いですかね。

○参加者

大きい物は高いと思いますね。何百万円でしょうね。だから重油がものすごく高くなったときがあったじゃないですか。あのときにそういう話をしたら、ボイラーが高いから駄目だと。

○知事

その後、だけど随分安いものが出てきたんじゃないかなと。調べなければいけないね。本当に安く導入しなければ駄目ですね。

今でもまだ重油は高止まりですからね。だから、これは安くできれば、十分採算が取れてくるからね。

○参加者

値段ばかりではなくて、やっぱり化石燃料ではない燃料で、確かにペレットを燃やしても二酸化炭素は排出されますけれども、化石燃料ではないもので果樹をつくったということをPRですよ、今からの山梨の果樹は。

○知事

果樹のハウスの暖房にぜひ普及させたいものだと思うね、今どうしたらいいか考えているんですがね。

民間のそういうことを研究している企業と県で一緒になって、研究開発をするとかね、思っていますかね。

最近 pellets はあれですか、御社ぐらいで、ほかでつくるようなところはないですかね。

○参加者

どうですかね。やりたいという方は、見に来られる方は結構いるんですけども。

○知事

岩手県は pellets ストーブがものすごく普及しているんですよ。

○参加者

そうですね。県内では足りなくて、結局県外から pellets も運んでいますね。

○知事

今、原料的には足りないということはないですか。

○参加者

そうですね。やっぱり夏場はとてもしんどいというか、つくっても持っていくところはないので。稼働率だとかなり低くなる。私たちは製材というのが主なので、傍ら、どうしても出てしまうので、pellets をつくっているんですが、やっぱり夏場の需要というのはとてもあれですね、ほとんどやっぱり暖房需要というのがメインなので、夏をどうしのぐかと。

丸太はおかげさまでさっきも課長も言ってもらった限定指名とか、F S C とかで認証を取っているんで、割とそういう枠の中では・・・。

○知事

ところで、私はよく分からないんですが、平成 21 年度山梨県での木材の生産量がこの前の年に比べて倍増したというんですよ。15 万立方メートルになったということでしょう。15 万 8 千立方メートルか。この前は 7 万立方メートル。

○参加者

素材生産が。

○知事

これは本当に増えたんですか。

実感はありますか。県産材の。

○参加者

それは素材生産の量ということですよ。やっぱり県外にかなり、高性能の機械がすごく入ったということもあると思うんですが。

○知事

そういうことですか。みんな県外へ出ていく。

○参加者

合板へいってしまっているから。ベニヤへ。

○参加者

今、一時、バランスが悪くて、地元で今まで定期的には買っていたものが買えなくなったりとかはあります。

県産材の需要が増えているということで、非常にいいと思うんですが、地元の我々業者が落ち着いてものを見定めて、決まった定価で買えるかといったら、そうではないような状況なんです。

実際に後ほど話があると思いますけれども、材を集めるのに苦労して、長野県にかなり頼ったりとか・・・。

○知事

材を集めるのに苦労するというのは、どういうところで苦労するんですか。

○参加者

うちの場合は去年の9月にチップ生産も初めまして、そのチップというのは紙ですね、紙を主体として。あと建材用だとか、MDFやパーティクルボード、そういうメーカーさんだとか、あとは皮、樹皮なんかは敷地内にある工場へも、バイオマスの燃料供給等をやっているんですが、正直、県内からの下のほうの材ですね。A・B・C・Dとありまして、A・B材は建築、県内でも、また県外の合板メーカーでも、集成材だとかそういったものには結構出ていると思います。

だけど、私たちがやっているような本当に一番下のグレードですよ。そういうものを、例えば県有林なんかでも結構切り捨てられてしまって、持ち出して来ないものって結構あるんですよ。

○知事

捨てられてしまっただけね。

○参加者

捨てられちゃって。それですごく・・・。

○知事

今、だけど利用間伐ということで、盛んに持ち出してるんだけどね。

○参加者

今も結構見ていると、あちらこちら捨ててある。

○知事

だから、今までそういう捨てていたものが、ちゃんと金になるんだから。

○林業振興課長

安い道を開けながら全部山から持ってきて、枝葉まで売れるようにしたいなど。

○参加者

今日も林業振興課の方とか来てくれたんですが、山梨県のチップを製紙会社に安定供給ということで、皆さん一生懸命動いてくれるんです。ただ、それだけの原木が山梨県内で全部調達できるかということ、うちが大体1万、去年の9月からの稼働で1万9千トンぐらいだったんですが、そのうちの9千トンが山梨県、あとの1万トンが県外というような、うちもまだかけ出しなので、なかなかその素材が集まりにくいということはあると思いますね。

なかなかそうやって、周りの山には見えるんですけども、これがほしいなというような現状で、できたらそういうものを出していただければ。

○知事

やっぱり木材チップの生産がかなり急速に増えているでしょうかね。お宅のよ

うに、そういう新規参入してきたりして。

○参加者

始めようと思ったときは、去年、一昨年あたりは増えているわけではないんですが・・・。

○知事

最近はいいいじゃないですか。

○参加者

だめですね。価格競争です。本当に価格競争です。それで木を使わないです。

○知事

内装材に使うようになったんじゃないんですか、むしろ木を。

○参加者

公共のものは結構・・・。

○知事

民間はあまり使わないんですか、マンションは。

○参加者

民間は使わないですね。いくらか増えては来つつあるみたいですけども。

○知事

やっぱりそういう燃料になるような材を持ってこななければいけませんね。

○林業振興課長

ただ、1つ難しいところは、山梨県の生産16万立方メートルなんですけれども、県有林から4万立方メートルぐらい。比べると民有林が多いものですから、やっぱり今後、県森連だとか森林組合と連携しながら、地産地消のための材をどうやって確保するかとか、安い木をどうやって有利に販売するかとか、そういうシステムをつくっていかないと駄目だと思うんです。

急に県産材の需要が増えてきましたので、先ほど言われたように、少し混乱している状態なので、そのへんは県も入って一生懸命、制度設計みたいなことをしなければいけないなど。特に民有林の材が結構多いものですから、そのへんの対策をしなければいけないと。

○知事

1年で急激に増えれば大変ですよ。多少混乱もありますよね。まあ、ちょっと増えすぎのような感じが。もうちょっと緩やかにね、5年ぐらいかけて緩やかに増えていくのがいいですよ。

あといかがですか。

○参加者

うちは製造とか、製品開発とか、そういったことは全くやってなくて、今それぞれ頑張っていらっしゃるいい製品を露出するというような作業。商社みたいな、言うところにはいいですが、何もできない材木屋をやっていますけれども、そんなことで皆さんの様子も少しは分かるので。

○知事

原材を何か加工したりとか、そういうことではなくて、加工されているものを。

○参加者

外材を。

○知事

外材を使ってね。

○参加者

そんな中で、やっぱり我々の仲間が戦後、65年前600軒あったのが、年々減って30年前300軒、20年前200軒、10年前100軒、今は50を割っている、こういう状況の中、先ほど冒頭、知事さんが言われたように、組合の中で頑張るしかなくなるような、民間がもう順番待ちで後継者も、もうやめなさいなんていう話もかなり多くなっています。

県で施策を立てて、振興課さんからもいろいろご指導をいただいたり、情報をいただいたりします。一部若い人は、パワーを持って、ちょっといろいろやってみようと、チャレンジをしているんですが、たぶん我々の仲間としては、わずかな、ささやかなことのチャレンジはできても、もう大きい改革、今やれるだけのことをやって、工場も新設することなく終わりだよなんて、寂しいような会話が多いんですね。

だから、そんな中で、今だから何をというものを、県のほうには一番伝わっていると思うんですが、またご検討をいただいて、補助金の額なんかも非常に県で持っているものも多いと思います。先ほど課長さんも言われましたが、安い道というんですか、森から引っ張ってくるような道をどんどん入れて、我々の業界が、そういうものをきちっと受けられるような状態ができればというのが1点です。

あともう1つ。県で施策を出しても、その受け皿は我々の協会しかない。しかし、この協会の運営を今どうしようかというのが、1つの課題にもなっているんです。県産材などについて、需要と供給の2つの委員会に分けてあるんですが、委員会をやる前にこの組織を回すのにはどうしたらいいか、まずそこから入ってしまっているもので、今後、県とか国とかいろいろ施策があっても、組織として受けるところができないという……。

○知事

木材協会、一般公益法人ですよ。こういう会がしっかりなければ困るということで、組織をおつくりになって……。

○参加者

今言われたとおり、なかなか難しさがあります。

設計士さんとか売りのほうへ目を向けようということやってきました。やってみて、非常に難しさがありますね。やっぱり製材屋さんとか林業の方々のバックアップというか、全面的に指導とか協力だったらできるかもしれないけれども、この売りに関して中へ入って指導しようということは、なかなか難しいことです。最近しみじみ感じまして、今後これをどういうふうにしていったらいいか。そこを今言いたかったんじゃないかと思うんです。

○知事

売りに関してとはどういうことですか。

○参加者

ある物件に関しては、最終的にゼネコンさんと話になるんですが、協会として、設計の段階から全部協力して、そして材も。しかし、販売というか、商売といたしますか、難しいものがありまして、今後のこの協会のあり方というものを、もうちょっとみんなで考え直さなければ、これは立ちいかないなど。

○知事

今、製材業者さんが非常に少なくなっているということで、だけど全国的には大きい製材業者がありますよね。静岡あたりだってそうでしょう。

○参加者

でも製材を外していますね、どの県も。

○知事

そうですか。

○参加者

黙って県産材を引いていた工場も、やっぱり日が当たらなくなって、転業してしまうとかですね。

○知事

だけど、そうはいつでも、例えばさっきの南部の話じゃないですが、みんな買いに来て、買いに来るのは、みんな製材屋さんが買いに来ているんでしょう。

○参加者

製材屋さんだけじゃないです。

○知事

よく山梨県の木が、木曾ヒノキになってみたりとか、天竜材になってみたりとか、そういうことをいうけれども・・・。

ああいうところはやっぱりかなり大きい製材屋さんがいるということでしょう。

○参加者

そうですね。特化してやれば、やれないことはないと思うんです。専門にやっていけばね。特化しないと、山梨県の製材屋は何でも屋ですから、それもうまくなかったんです。特化しないと無理ですね。

うち近くに、かまぼこ板を専門にやっている工場があるんです。あそこ、結構よくやられているんです。

○知事

かまぼこ板。

○参加者

専門にもみの木で。あれは、特化しているからやれるんですね。

○参加者

よろしいですか。

製材屋を今やっているんですが、私、この業界へ入って11年になるんですが、年々周りから、あそこもやめた、ここもやめた。郡内では1日に8時間、工場を回しているのは、たぶんうちぐらいになってしまったかというぐらい、この近

くの製材屋さんにもたまに行っても、建築はやられていても、例えば製材工場がもう止まってしまっているとか、そういう状態です。

何とか私はもともと家業だったんですが、何とか木も好きですし、この製材を何とか続けていきたいなと思って、いろいろ転がしているつもりなんです、なかなかやっぱり世の中のスピードも早いですし、お客さんも求めているものも、本当に変わるのが早いので、なかなか思い切った設備投資とかもしづらいということですかね。

やっぱり、これを入れたからといって、またそのあと仕事が、今はあっても、そのあと続くという保障も、もちろんどんな仕事もそうだと思いますが、ないですし、それが例えば、設備を入れるとやっぱり返すのに時間がかかると、なかなか思ったことができないのが現状なんです。その中で私たちみたいな小さい製材工場が生きていくには、やっぱり人がやらないこととか、特殊なものを引いたりして、そこに行けば何か面白いものがあるんじゃないかというようなことで、今は割かししているんじゃないかなと思うんですよ。

○知事

どういってお客さんを目当てにして。

○参加者

やっぱり建築屋さんが多いですね。

○知事

建築屋のどういう、この原料を。

○参加者

もう本当に建築の構造のはり・けたから、造作材とか、あとは特殊なカウンターみたいなものとかも引いたりしています。

○知事

それも注文でやっておるわけですか。

○参加者

そうですね。注文材がほとんどです。

○知事

注文というと、やっぱり8時間、全部稼働するわけですか。

○参加者

そうですね。何というか、なかなか注文材ですと回ればいいんですが、やっぱり暇なときがあるので、そういうときにやっぱり加工材の板を引いたり、加工材用に乾かさなければ使えないような板を引いたりとか、そういったものをして、何とかまだ一応、遊ばせないようにと、工夫しながらやっていますけれども。

このところ、やっぱり柱とか土台、今、特化したものというのは、本当に量をつくっているところが、安くて精度のいいものをつくってしまっていて、私たちもそういったものを市場から買ったりして、お客さんに納めているようなことがあります。

私たちのような工場に来るのは、やっぱりそういった工場ができないことですかね。大手が対応してくれないようなことを受けてやっているんで、このとこ

ろやっぱり注文材として来るものは、例えば長かったりとか大きかったりとか、そういったものが多くなってきているんですよ。

そこで今は年明けに設備を考えているんですが、今の現状は、うちは9メートルまでの長いものしか引けないんですが、今度は12メートルまで引けるように。幅も今は1メートルぐらいまでしか引けないんですが、1メートル30ぐらいのものまで引けるようなものを入れるように始めているんです。ただ、やっぱりそういったものを入れると、やっぱりそのあと付いて回るのが、今は乾燥だとか、やっぱり今度は削ったものがほしいとか、そういった次の段階があるんですが、私たち個人の企業だとそこまでのラインにしてしまうと、このあとの設備は5年後かな、10年後かなとなってしまう。

また、その5年後、10年後にまたどういった需要になるか分からないですが、なかなかそういったことが連続して、今まとめてやりたいんですけども、なかなかできない。

○知事

従業員は何人ぐらいいるんですか。

○参加者

今は身内も含めると、事務員まで入れて9人ぐらい。

○知事

大したものですね。

今話を聞いていると、一当たりの機械は全部入っているという感じですね。

○参加者

そうですね。

ただ、やっぱり今、お客さんに求められるもの全部に対応するとなると、なかなかやっぱり厳しいんですが、入れるのは簡単ですが、なかなかそれを償却するというのを考えると、今、材の値段とか仕事の量からいっても、なかなかある程度のところ妥協しておかないと・・・。

○知事

お客さんは大体、山梨県内ですか。

○参加者

そうですね。本当に10年ぐらい前までは100%山梨県内の工務店さんと木材業者さんだったんですが、ここ2、3年は全国的に製材業者が減っているようなので、静岡とか、あとは東京のほうの木材の流通の方から特殊な注文材はいただいているような感じになっています。だんだん比率が多くなってきていますね。

○知事

では、県外の本木を買ってくるわけですか。

○参加者

そのへんもちょっと矛盾しているんですが、例えばヒノキなんかの高齢樹の丸太というんですか、100年を越えたような木というのが、なかなか県内の原木市場には出てこないんですよ。私たちが注文するのはやっぱり特殊なものが多いので、そういった役物を取れる丸太がほしいんですが、そういったものがほしい

となったときに、県内の市場だと出てこないの、近くだと西川材の飯能に行ったりとか、あとはもうちょっと量がほしいときには名古屋のほうまで行って、でもおかしな話で向こうに行くとも山梨県産材が逆にあるというような。

何年か前に、山梨県からも、100年製近い県有林が3年ぐらい出たことがあったんですが、まだストックが県有林であるようでしたら出していただきたい。

あとは今、FSCの関係で、広葉樹なんかの天然木が切れないようになってしまったんですかね、私も勉強不足で詳しくは知らないんですが。

○林業振興課長

そんなことはないですけども、対象地がもう少なくなってきた。

○参加者

我々、父や祖父から、昔は県から良質な広葉樹が、例えばケヤキとかヒノキとかが出たということを昔話に聞くんです。

実際、私は山梨の天然の広葉樹というのは、見たことも聞いたこともあまりないもので、そういったものをやっぱりある程度出していただければ、それをまたカウンターとかにして。カウンターみたいなものは広葉樹じゃないと硬さの問題とかもあるので。

今はアカマツなんかのカウンターなんかは、いろいろやっているんですが、広葉樹の広いものとかも、品揃えとして置きたいので、そういったものもやっぱりぜひ出していただければ。

○林業振興課長

いい広葉樹林というのは、もうほとんど切ってしまっていますし、人工造林化してしまったので、山の高いところでないと、広葉樹林というものはあまり残ってないと思います。そういう関係で広葉樹があまり出せない状況ですね。

○参加者

そういうものを単独で売るのは難しいから、我々の木材協会で、例えばネットで売ったりとか・・・。

○参加者

おかげさまで、県産材で住宅を建てたいという人が、結構このところ増えてきております。

住宅に関しては、南部さんとか峽南さんとかにお願いして、県産材で支度はすることは可能になってきたと。

公共の建物について、大量にどうしても必要になってくると。ラベリングですね、県産材のそういう証明を必要になってきて、どうしても取りっこになってしまったり、ラベリングを出せれる材は急に集まらないとか、枚数が極端に多いとか、そういうふうになってしまうので、ゼネコンからお話をいただいたり、間に入ってる工務店からお話をいただいたときに、なかなかうまく扱いきれないという部分が結構やっぱりあります。

○知事

やっぱり量が多いから。

○参加者

そうですね。大量にという、どうしても床板とか壁板とか、そういったものを大きく県産材で何枚も必要となってくると。当然、日数もかかることですし、いざ注文をいただいたときに、すぐに対応できるかという、そういうときに発注しようと思ったら、丸太がないとか、そういうふうになってしまうので・・・。

○知事

公共の建物だと県産材を使いなさいよと、かなりの量は出てきますよね。

○参加者

そうですね。今、おかげさまで、だいぶそういった県産材を使いましょうという方向になっていますので、あとは軽量鉄筋を使うようなところも、木に変更できるようなものがあれば、下地でも県産材を使いなさいとか、そういうように言っただけであれば、またそこらへんも大量にないんですが、それでそこで応えられるかどうかという問題も出てきますので、そういうときに・・・。

○知事

県有林だから対応できるよね、県がその気になればね。国有林なんか国がすぐに倒してくれるか分からないじゃんね。

○参加者

時期の問題が・・・。

年度でいって、寒い時期に伐採ですから、寒い時期に用意ができると。4月に決まったよ、さあやるよといって、さあそれを揃えなさいといわれても、ものがない。秋にならないと、基本的には切れないよという・・・。

○林業振興課長

ただ、県も、公共建築物の木造化の法律を受けて、来年から行政と業界と商工関係者の会議を設置して、公共施設の情報を問題のない範囲で事前に・・・。

○知事

発注計画だね。どのくらい、何トンぐらいいるとかね。県産材がどのくらい、いつごろ、どんな予定と、そういうのを出すの。

○林業振興課長

会議を設置して来年から、その情報を問題ない範囲で流して。公共施設は大量に木材を使いますので、県産材をそこで使うとなると、事前に情報を流して。

○知事

市町村も・・・。

○林業振興課長

そうです。市町村関係者も入れて、その会議をつくるという方針で今、体制をつくっていますけれども。

○知事

そういう情報がいくと、そこそこに対応できるからいいでしょう。

○参加者

そうですね。

○参加者

図書館だとかいろいろ話はある。おかげさまで、知事さんが言っている

から、県産材という指定できているんです。

○参加者

私たちも、彼も東京の大学出身なんですが、林学というところ、農業大学を出てきたんですが、山梨の中でも、もう少し木を勉強できるような施設ですね。そういった大学までとは言いませんが、農業的なものとか勉強できるような環境があるかもしれませんが、木について、私たちも勉強不足で、卒業しただけというあれはあるんですが、今からそういう林学に携わるような人がいれば、1回そういう木の勉強ができるように……。そういうところがあればなど。

○参加者

ちょっと以前、林業関係者に話をしたら、ドイツみたいなフォレスターという制度が山梨県にもあるといいということをいっていました。

森のことはものすごい詳しくて、やっぱり普段の職員の方だと異動になってしまうんですね。そうすると継続してやっていく中心になる人がいないと。だから、そういう専門職の人がそればかりで長くいてくれるという、考えなどがぶれないでいくということ……。

○林業振興課長

国が今度、このフォレスターを養成しようといっって、平成23年度から、その要は普及職員のプロ化したみたいな……。

あと地元に着した、今言われたような、ドイツのフォレスターみたいな制度を日本にもつくっていく方針がありまして、当面、県職員が肩代わりするんですが、平成23年度以降からは、また新しい民間人を入れたりして、そういう制度をつくっていくという方針でいきますけれども。そのへんは国の制度に、本県でも十分対応していけると思うので。

○知事

勉強は、森林総研なんかでしか勉強できないものね。どこかにある。

○林業振興課長

岐阜県に森林文化アカデミーというのがあって、非常に良い教育をやっているところがあります。本県でも森林総研あたり、そういう機能ができればいいなど。

○参加者

そういうところがあれば、そういうことについて興味を持つとか、やっぱりこの前、県立大学でちょっと講師という形で呼ばれて話をしてきたんですが、なかなかうまく人前でしゃべるといのは難しいんですよね。

その生徒たちも興味がある子はやっぱり聞くと。だから、もう完全に興味がない子とか、環境についてということじゃべってくれと言われたんですが……。

○知事

山梨大学というのは、再来年ですか、農学部系統の学部をつくるんですよね。環境生命学部とかいったかな。

○参加者

木の勉強をするようなところがあれば。

○知事

そういうものもね、林学学科的なものがあるといいですよ。

○参加者

学部が増えるということですよ。

○知事

最初は学科から始まるかもしれませんね。

○参加者

私は、木材の流通ばかりで、仲間から買って、一部県産材は売っていますけれども、建材を中心にやっていますので、木材も、いわゆる内材も県外の材料が多いです。

県産のものは、意外といい材料なのに知らないことが多くて、木の国サイトの「木の国や」とか、そういう拠点のところで、一般の人なんかには知らしめているけれども、まだまだちょっとPRが足りないかなと。私たちの力不足もあるんですが・・・。

目が肥えているというか、木思考の人はそういうものを使ってくれるんですが、やっぱり一般の人は、いいものだけど、単価の問題もあってなかなか使ってくれないということがあります。

今、建築材料の無料の提供とかやっているんですが、もうちょっと何か幅広く考えてもらえるといいなと。なかなか工務店さんも仕事が少なくて、やっぱり競争が激しくて、工務店さんの仕事づくりという面で何か、それにプラス県産材を付け加えることができたらと思うんですが。

あと、これはちょっと木材とは関係ないんですが、山梨県自体、太陽光の補助がちょっと少ないかなと思います。

北杜市なんかは結構出していますよね。

○知事

補助をね。どのくらい出しているんでしょうかね。県が10万円でプラス・・・。

○参加者

他府県でも、都心なんかでは、もうちょっと高いというか、都や区で出したりして結構・・・。甲府市なんかは少ないですが、3万円とか。

あと、LVLのキーテックさんなんかは、県産材認証のことを出来るようになって、うちでは建材を扱っていますから、厚い合板みたいな県産材が県内に流通して、それを使えば補助してくれるとか、そういうことがあれば、うちは建材中心だからやりやすいというか・・・。いわゆる県内では合板工場がないですから、県外に山梨県材料を出して、それをまた戻して使うということをやったり・・・。

そういう建材商品みたいなものを、木材以外の、あとLVLの下地材というものもあるんですが、そういうものもたぶん県産材でできるかと思うんですよ。そうすれば、県産材ももうちょっと違う面で・・・。素材ではなくて、LVLみたいな形の商品で供給できる可能性もあるかなと思います。

○知事

ちょっと今のはよく分からないんですが。

○参加者

LVLというのは、前は平行合板といってましたが、繊維方向を互いに平行して接着したものです。薄い下地材というか、木材の材料で、そういうものに使うことがあるんです。

○参加者

マルビルでやったときに、展示がちょっとしてあったと。あれです。

○知事

ありましたね。

○参加者

大きな断面のものもできるんですが、小さい断面のもので。あまり反りとか曲がりがないから、ちょっと厚いベニヤみたいなもの。いろいろな用途があるので、それを活用したらどうかと。

○知事

合板は外でやるしかないけれども、それを活用できるなら・・・。

○参加者

県内でそういうことができないから、県外に出して、それをまたこちらに戻して利用できるようになれば、建材の利用ができるので・・・。

○参加者

それはもう、林業振興課さんの方で、キーテックって会社をつないでくれているので、かなり動き出しています。

○知事

あなたは、そういうことを流通業者だからやるのでしょうか。注文を取って・・・。

○参加者

一部、LVLのものがあるんですが、そういうことは今後やっていきたいと思うんですがね。需要は少しあります。いっぱいではないですが。

○参加者

さっきからちょちょこと意見させてもらっていますが、以前はうちでも製材工場をやっていたんですが、今はもう製材は20年ほど前にやめました。

私も製材をしたということで、やっぱりムクの木というものに、ものすごい愛着がありまして、今ちょっと、元製材屋という感覚なんですけど、いわゆる県産材でつくった家具にちょっと力を入れて、力を入れてといっても、自分1人の手でやるレベルですから知れた量なんですけれども、ヒノキ中心、アカマツくらの木を使って家具をつくり出しました。

やっぱりエンドユーザーさんなんかほとんどなので、使ってくれるお客さんの意見がどんどん耳に入ってきます。いいね、悪いね、こうだねということが。

○知事

注文生産しているということですか。

○参加者

ほとんど注文生産ですね。

あと既製品みたいなもの。例えばヒノキの積み木なんかというのは、木の国

サイトの「木の国や」でも販売してもらえるもので、自分としても手が空いたときにつくっておけば・・・。

子どもが生まれたから、出産祝いにと、先月、今月なんかも、まとまった量が出たりしまして、これはみんなとりあえず県産材、山梨県のヒノキの積み木だよとか、このテーブルは山梨県の木でつくりましたよと言うと、やっぱりお客さんの「ああ、そうなの」という、ものすごくうれしそうな顔が見えてきますね。

○知事

さっきのペレットの話もそうですが、これは地産地消というものに対して意識が高まっているね。

だけど、家具となると、職人を養成しなければならないから大変でしょう。

○参加者

今は、とても人を使っているという身分ではないですから、自分で市場へ行って、丸太を仕入れて、ちょっと知り合いに来ていただいて製材して、そして自然乾燥させて、それをつくっています。

そういうレベルから始めていかないと普及もしないし、いきなり何千万円の機械を買って大量生産でという、また何か元のもくあみに戻りそうな気がしているもので。

○知事

一当たりいろいろ伺いましたが、どうですか。ご意見、どうでしょうか。

いろいろな業態があるんですね。製材はあるし、流通をおやりになっている方も何人もおられるし。

○参加者

よろしいですか。

私と南部さんなんかは、先ほどの土木の丸太筋工、杭の調達が非常に難しいというのと、県の設計単価が安いみたいで、非常に苦しい思いをしているので、設計単価を少し上げていただきたいです。

○知事

土木の丸太というのは、今需要があってもなかなか追いつかないんですか。

○参加者

やはり需要は多いです。県のほうも、もう県産材でやってくれということで、県森連と南部さんとうちで丸太の取りっこ。そして県内の人もほしいもので、価格は競って、もう何をやっているか分からないような状態。

○知事

ちょっと県有林から出さなければ駄目ですね。

そういう、この県内の需要というものを把握して出すようにしなければね。

○参加者

結局、調達が難しくて、土木だと1メートルに切ったりして使うもので、曲がっていてもいいんですが、結局、直材へ手を出して、直材を買わないと間に合わないような状態で。

○参加者

長野のほうだったら、スギ、ヒノキ関係なく、6センチから14センチぐらいの丸太が1本500円とかで売れるんですが、山梨だったら400円から420円。420円で売ればいいほう。だからもうちょっと単価を上げていただければ。

○知事

それはだけど単価と言ったって、それは建設業者さんが決めているわけでしょう。決めているというか・・・。

県が、積算の単価を決めているということはないと思いますね。

○林業振興課長

標準単価みたいなものがあるので、やっぱり業者の売り込み合戦という感じで。

○参加者

今ちょっと話が出たんですが、長野県の方にいくと、例えばガードレールとかを落葉松でつくったりしているんですね。

やっぱりイメージとして、そういうものを木でつくると、壊れるとか腐るというイメージがすごく強いんです。だけど、何も腐ったら資源があるんだから替えればいいじゃないかというような、行政がそういう考え方を持ってもらえば、もっと県内の木材がというか、活性化するんじゃないかなと思います。

○知事

ガードレールを木でつくった、完全に木ではなくて、中には鉄骨の芯があって木を挟むんだけど、一応、景観的にはいいですね。

だから、そういう木造のガードレールをこれからどんどん入れていこうということは今考えているんですよ。できるだけ木造の、少なくとも富士山の北麓だとか、そういう景観上大事なところは、木製のガードレールを入れていくと。

静岡・神奈川・山梨の知事の会合、3県サミットというものがあるんだけど、これを神奈川県が一生懸命やっているんですよ。神奈川県方式のガイドラインをつくってね。その内容を聞いてみたら、なかなかいいものだから、山梨県でもやろうということで、一緒に富士山周辺をやろうじゃないかなんて言っているんですがね。だんだん増えていくと思いますよ。

まあ、そうですね。長野県は木製のガードレールがかなりありますか。

○参加者

結構ありますね。

○参加者

どうしても耐用年数はどのくらいですかという話になってしまうんですが、腐るからいいということもある。

○知事

しかし、いろいろ聞いていて、やっぱり木の需要がかなり増えてきているという感じであるから、いいにはいいですね。

○参加者

最近は全体の仲間意識というか、若い人とチームワークというか、そういうものが取れるようになりました。

○知事

しかし商売では競争はしているんでしょう。

○参加者

しますね、みんな嫌いです。

○参加者

もう、取った、取られたというレベルではなくなっていますよね、業界が。

○参加者

私たちのこの世代に、木青会、木の青い会、青年の会をやっていて、課長さんにも来ていただいて、いろいろと話をしています。

県産材に向けてのベクトルはみんな一緒。もちろんぶつかって、取った、取られたはありますけれども。

○知事

取った、取られたはあっても、お互いに手の内はみんな分かっている・・・。

○参加者

まあ、情報を共有しているほうが、私は自分たちにとって有利だと思います。

○知事

なるほどね。いろいろありがとうございました。

県も、いよいよ一段と、公共建築物の木造化を促進するというところで、協議会をつくって、ある意味、やっぱり需給調整みたいなものはやっていかなければいけないんじゃないかと。そして、山梨県というのはやっぱり県有林、恩賜林という財産があるわけですから、木材需給がスムーズに回っていくように、県有林の伐採計画とか、そういうものも連動していかなければいけないんじゃないかなと思いますね。

併せて、それからペレットとか、そういう形での活用方法というものは、これはぜひいろいろ考えていかなければいけないというように思っていて、いずれにしても、まだバイオマスについては、ちょっと活用方法が山梨県の場合は遅れているものですから、こういうものも大いにやっていこうかと思っています。

ですから、こういうことにもぜひ関心を持っていただいて、いろいろと皆さんからアドバイスをいただければありがたいと思っております。

今日はいろいろお話を伺うことができ、ありがとうございました。

○司会

以上をもちまして、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。